



Japan
Food
Research
Laboratories

第 10037873001-02 号
2010年(平成22年)06月16日

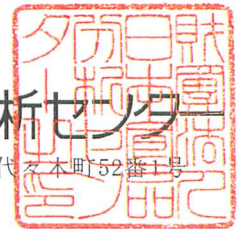
試験報告書

依頼者 有限会社 バルプラストジャパン

財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検 体 V-パワークリーン

表 題 抗菌力試験

2010年(平成22年)04月28日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

抗菌力試験

1 依頼者

有限会社 バルプラストジャパン

2 検体

V-パワークリーン

3 試験目的

検体のカンジダに対する抗菌力を試験する。

4 試験概要

室温で1週間放置した検体溶液にカンジダの菌液を接種後(以下「試験液」という。), 25 °Cで保存し, 保存30, 60及び120分後に試験液中の生菌数を測定した。

なお, あらかじめ予備試験を行い, 生菌数の測定方法について検討した。

5 試験結果

結果を表-1に示した。また, 培養後の生菌数測定平板を写真-1~7に示した。

なお, 試験液をSCDLP培地で10倍に希釈することにより, 検体の影響を受けずに生菌数が測定できることを予備試験により確認した。

表-1 試験液1 ml当たりの生菌数測定結果

試験菌	対 象	生菌数 (/ml)			
		開始時*1	30分後	60分後	120分後
カンジダ	検体溶液*2	4.4×10^5	<10	<10	<10
	対 照	4.4×10^5	4.7×10^5	4.6×10^5	4.2×10^5

<10 : 検出せず

対照 : 精製水

保存温度 : 25 °C

*1 菌液接種直後の対照の生菌数を測定し, 開始時とした。

*2 検体1包を注射用水130 mlに添加し, 室温で1週間放置したもの

6 試験方法

1) 試験菌株

Candida albicans NBRC 1594(カンジダ)

2) 菌数測定用培地及び培養条件

GPLP寒天培地[日本製薬株式会社]，混積平板培養法，25 °C ± 1 °C，2日間

3) 試験菌液の調製

試験菌株をPotato Dextrose Agar(Difco)で25 °C ± 1 °C，2日間培養した後，生理食塩水に浮遊させ，菌数が $10^7 \sim 10^8$ /mlとなるように調製し，試験菌液とした。

4) 試験操作

検体溶液(検体1包を注射用水130 mlに添加し、室温で1週間放置したもの)に，試験菌液を1 ml接種し，試験液とした。25 °C ± 1 °Cで保存し，保存30，60及び120分後に試験液をSCDLP培地[日本製薬株式会社]を用いて直ちに10倍に希釈した。この希釈液の生菌数を菌数測定用培地を用いて測定した。

なお，対照として，精製水を用いて同様に試験し，開始時についても生菌数の測定を行った。

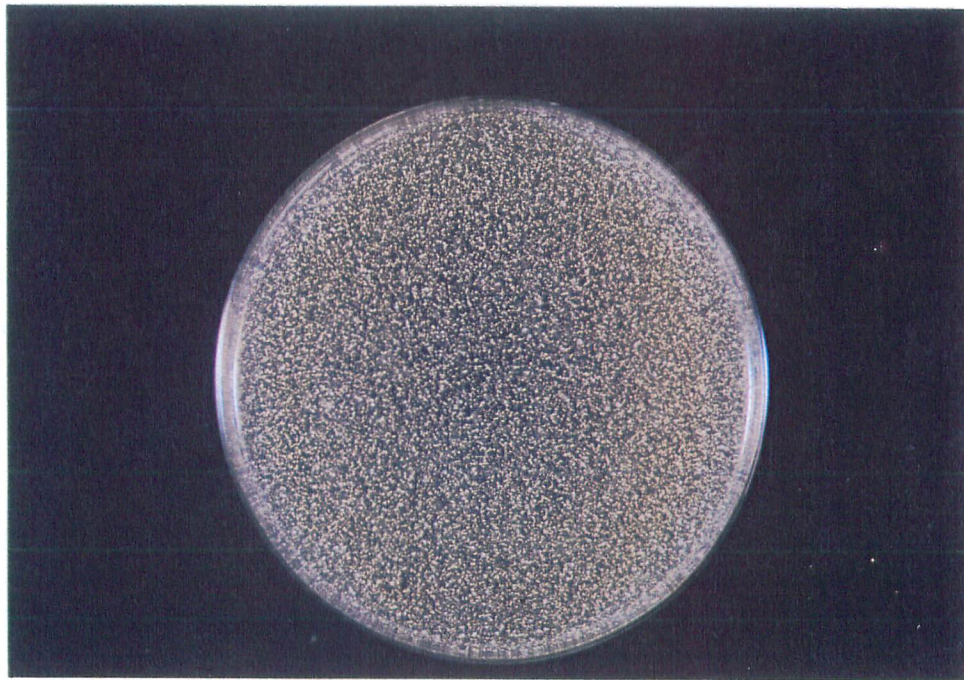


写真-1 カンジダ 対照 開始時
(試験液0.1 ml)

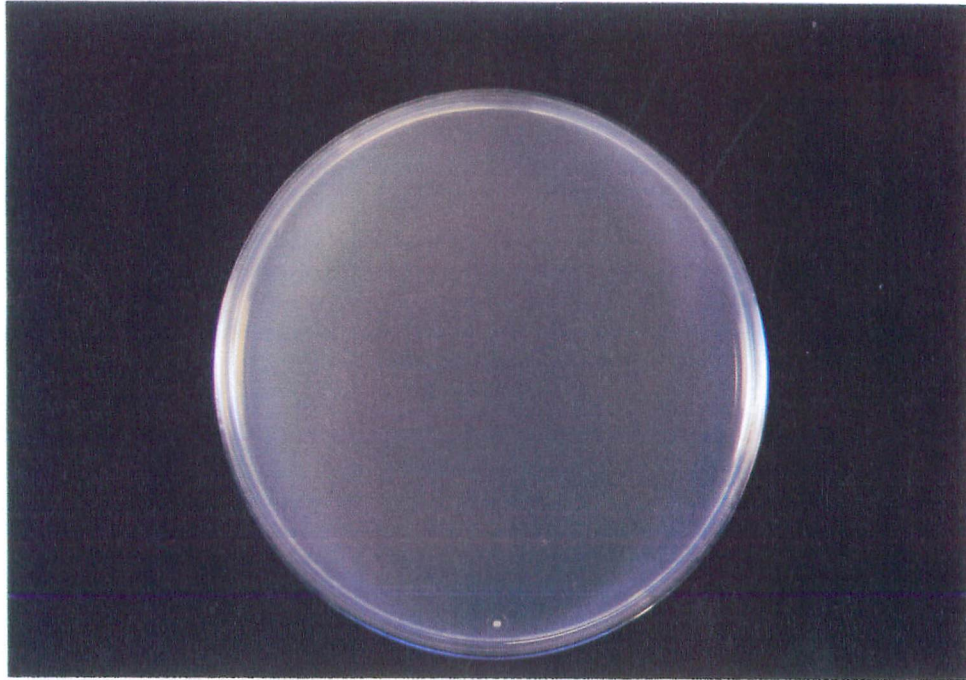


写真-2 カンジダ 検体 30分後
(試験液0.1 ml)

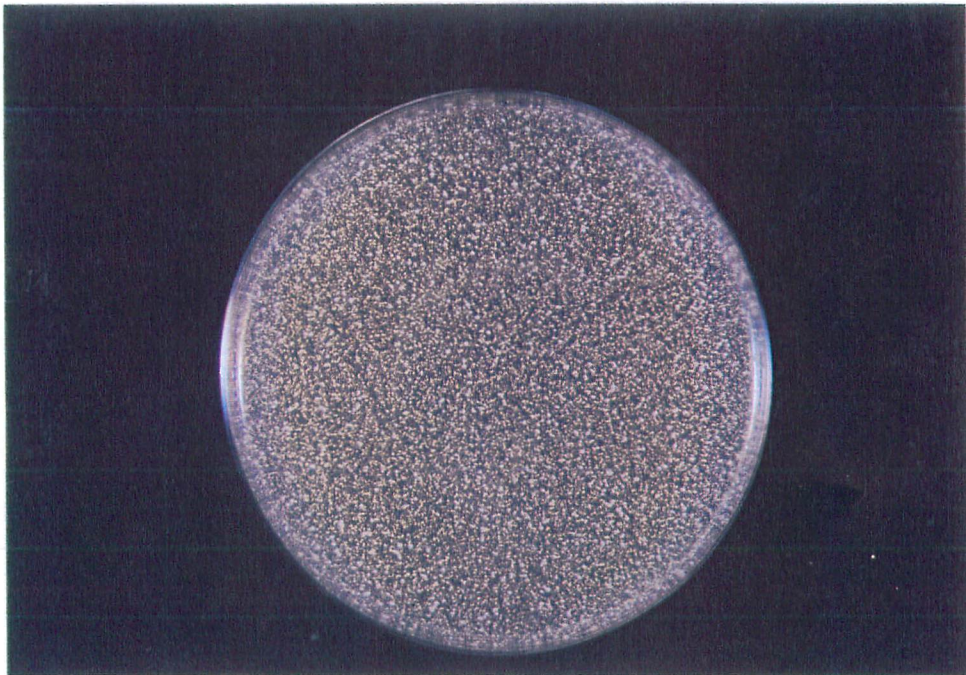


写真-3 カンジダ 対照 30分後
(試験液0.1 ml)

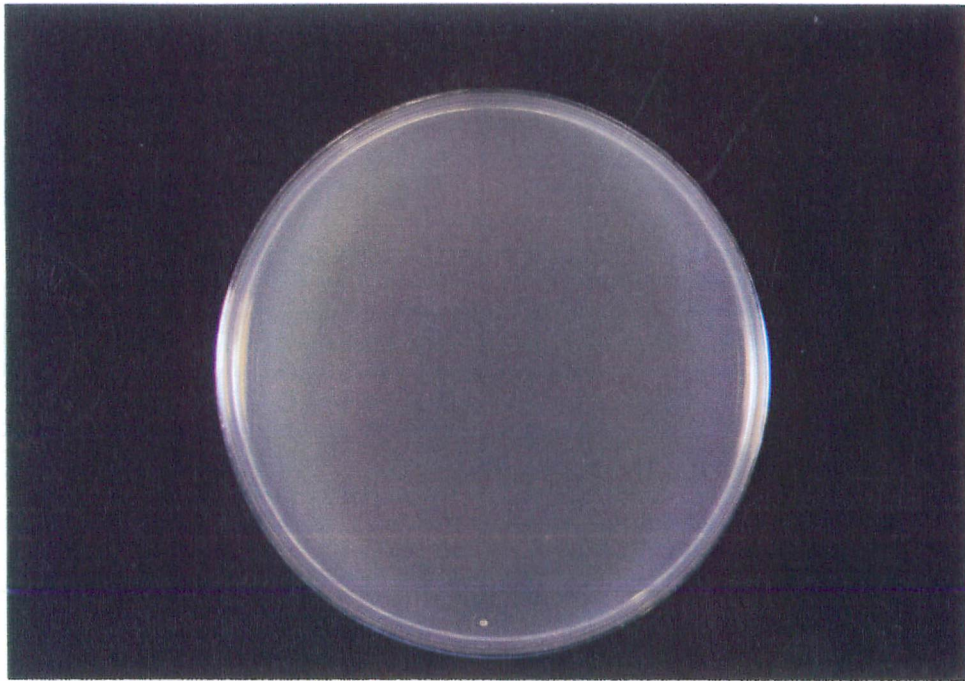


写真-4 カンジダ 検体 60分後
(試験液0.1 ml)

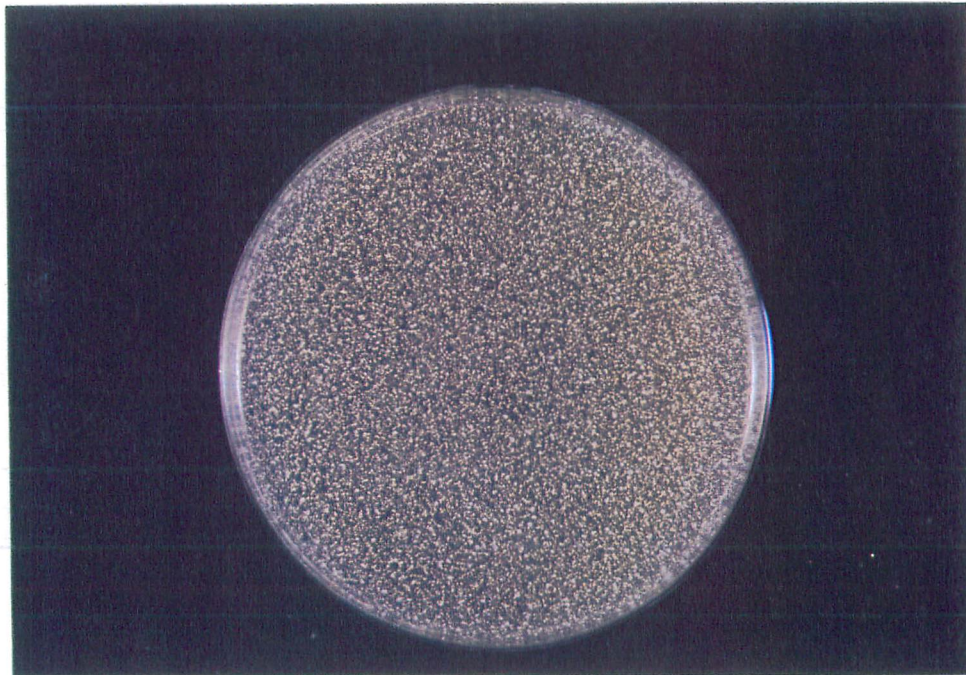


写真-5 カンジダ 対照 60分後
(試験液0.1 ml)

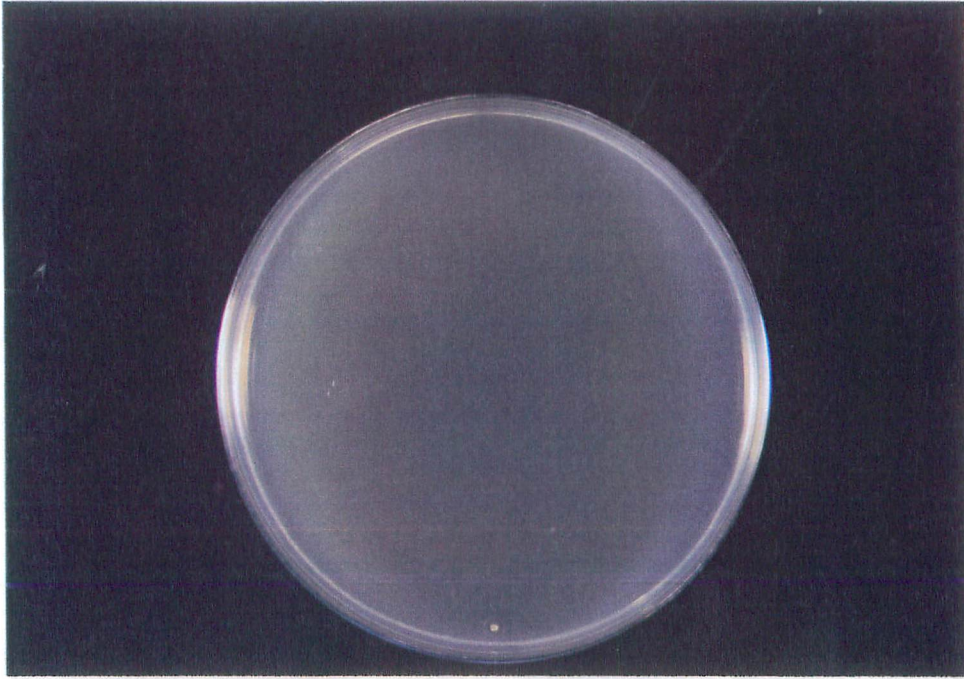


写真-6 カンジダ 検体 120分後
(試験液0.1 ml)

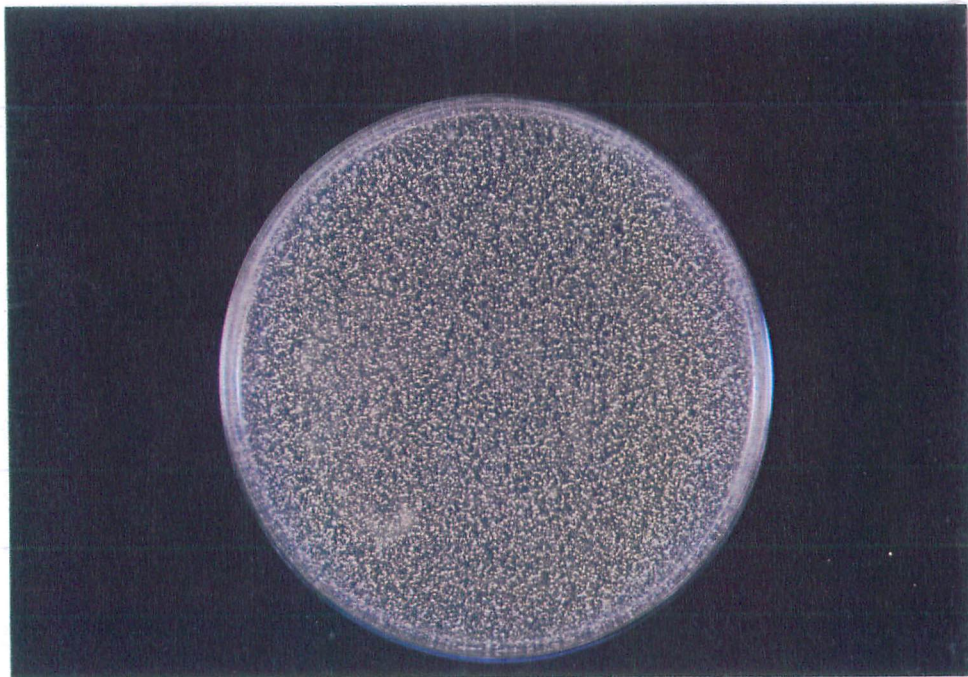


写真-7 カンジダ 対照 120分後
(試験液0.1 ml)

以 上